

	宝 玉 義 信	原町市芸術文化団体連絡協議会長
	石 河 清	いわき市文化団体連絡協議会副会長
報 道 機 関	山 崎 隆 代	福島民報社編集局文化部長
	栗 城 正 義	福島民友新聞社報道部部長待遇
	永 井 洋 光	N H K 福島放送局放送部次長
	丸 樹 敏 男	福島テレビ報道製作局次長兼制作第1部長
	中 山 寧	福島中央テレビ報道制作局制作部長
	堀 内 茂 昭	福島放送報道制作局次長
主 地	小 泉 毅	いわき市教育委員会教育長
催 区	上 野 英四郎	いわき市文化団体連絡協議会長

② 文化のふるさと指定

地域ぐるみの文化活動を期待し、現に活動している文
 化団体の育成とあわせて、情操豊かな「文化のふるさと」
 の形成を図ることをねらいとし、4町村を指定した。

指定町村：滝根町、湯川村、館岩村、葛尾村

(3) 参加する文化活動の促進

① 第2回福島県高等学校総合文化祭

県内高校生の日頃の文化活動の成果を発表し、相互の
 交流と芸術文化を通して心豊かな人間性の涵養に資する
 とともに、高等学校における文化活動の普及と向上を図
 る場として、音楽、美術、演劇の発表会を開催した。

ア 主 催

福島県教育委員会、福島県高等学校総合文化祭実行
 委員会、福島県高等学校音楽連盟、福島県高等学校教
 育研究会美術工芸部会、福島県高等学校演劇連盟、郡
 山市教育委員会、須賀川市教育委員会

イ 後 援

福島県高等学校長協会

ウ 協 賛

福島民報社、福島民友新聞社、N H K 福島放送局、
 福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送

エ 音 楽 部 門

(ア) 期 日 昭和58年7月14日～7月15日
 (イ) 場 所 郡山市民会館、須賀川市文化セン
 ター

(ウ) 参 加 校 59校
 (エ) 参 加 人 員 3,561人

オ 美 術 部 門

(ア) 期 日 昭和58年11月4日～11月7日
 (イ) 場 所 郡山市民会館
 (ウ) 部 門 絵画、デザイン、彫塑

(エ) 展 示 数 244点
 (オ) 参 加 校 53校
 (カ) 入 場 者 数 1,003人

カ 演 劇 部 門

(ア) 期 日 昭和58年11月25日～11月27日
 (イ) 場 所 須賀川市文化センター
 (ウ) 参 加 校 13校(地区予選の代表校)
 (エ) 参 加 生 徒 数 260人

(オ) 受 賞 校

最優秀賞 県立安積高校(東北大会出場)
 優秀賞 県立須賀川女子高校()
 〃 県立保原高校

(4) 芸術文化活動の向上

① 第36回 福島県文学賞

ア 応 募 数

小説 49点、詩 45点、短歌40点、俳句48点
 計182点

イ 審 査 委 員

岩間芳樹、鈴木 満、今泉壮市、大滝清雄
 岡村史夫、小川琢士、馬場あき子、阿久津善治、
 佐久間悠、金子兜太、安達真弓、藤村多加夫

ウ 企 画 委 員

広沢康郎、高橋八重子、三谷晃一、高橋重義
 白木英尾、天城南海子、鈴木正治、伊藤松風、
 新田八郎、大塚和美

エ 受 賞 者 数

部門	賞名	文学賞	準 賞	奨励賞	青少年 奨励賞
		小 説	1	1	1
	詩	—	2	2	2
短 歌	1	1	2	—	
俳 句	—	2	3	—	
計		2	6	8	5

② 第37回県総合美術展覧会

ア 趣 旨

県内及び県出身者から作品を募集して展覧し、本県
 美術文化の振興を図る。

イ 主 催

福島県教育委員会、福島県、福島県美術家連盟、在
 京福島県美術家協会、福島市教育委員会、福島市、
 (財)福島県文化センター

ウ 後 援

福島民報社、福島民友新聞社、河北新報社、N H K
 福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放
 送

エ 会 期

昭和58年6月11日～6月22日

オ 会 場

福島県文化センター

カ 運 営 委 員

安藤重春、五十嵐二朗、伊藤孝、大塚和美、岡崎英
 夫、鎌田正蔵、神野忠和、斎藤芳龍、佐藤光、高橋
 良一郎、丹野清栄、角田弘司、松本榮、三坂耿一郎、
 村上皓南、若松光一郎、渡辺良雄

(50音順)

キ 審 査 員

(日本画) 小泉智英、星茂、松本榮
 (洋画) 相田幸男、梅宮英亮、高橋幸彦、西